

令和５年度 小谷村教育委員会 １２月定例会 会議録

◎開催日時 令和５年１２月２５日（月）
開会：１６時３０分 閉会：１７時０２分

◎開催場所 小谷村教育委員会 相談・応接室

◎出席者 教育長 関 芳明
教育長職務代理者 太田 久吉
教育委員 片山 弥生
教育委員 松澤 彰一
教育委員 深澤 和子

◎欠席者 なし

◎傍聴者 なし

◎職務のため出席した者 教育課長 太田 勝

１ 開 会 （１６：３０）

○教育長 令和５年度小谷村教育委員会１２月定例会の開会を告げる。

時間になりました。全員揃いましたので、只今から令和５年１２月の定例教育委員会を始めさせていただきます。暮れのお忙しい中、また雪の降る中お集まりいただきありがとうございます。早速、始めさせていただきます。

２ 日程の報告

日程第１ 前回会議録の承認

○教育長 では初めに日程第１、前回会議録の承認ですが、事前に送付させていただきましたが、何か修正点などございましたでしょうか。

《特になし》

ありがとうございます。では、送付させていただいたものを会議録とさせていただきますので宜しくお願いします。

○出席委員 一同了承

日程第２ 教育長事務報告

○教育長 日程第２の教育長事務報告につきましては、次第の裏面に前回１１月の定例教育委員会から本日まで、私が出席した行事等について記載してありますので、ご覧いただきたいと思います。お気づきのことがありましたら後ほどお願いします。

日程第３ 報告及び協議

１ 児童生徒の様子について

○教育長 続いて日程第3ということで報告及び協議事項になりますが、児童生徒の様子ですが、特段ご報告することはありませんが先週末をもって、中学生が22日から、小学校は23日から冬休みに入っています。年明けは中学校が1月9日から、小学校が10日からとなっています。

2 12月議会一般質問について

○教育長 12月議会の一般質問についてです。裏面に資料1としてつけさせていただきました。今回は柴田友造議員からご質問をいただいております、沢山いただいたんですが、その内の、各種補助金等の創設について、ということで学習塾等の支援、それから未来を担う若者定住応援ということで質問をいただいております。それについてまず学習塾等の支援についてですが、これについての答弁としては、基本的に塾や習い事、稽古等については各ご家庭で負担していただくべきものと考えます。小谷村には学習塾が限られていますので、公営学習塾を運営しています。といった回答をさせていただきました。これについて今後も含めて、委員の皆さんから何かご意見といいますか、思うところございますでしょうか。公営塾については金額的には安いと思います。

○太田職務代理者 習い事といっても沢山あって、1人で1つじゃなくて2つ、3つやろうと思えばできる訳ですから、それに対して補助とかするとやらない子と不平等のような気がします。

○教育長 色々ご家庭で思いがあってやっている習い事だと思いますので、ここはご家庭の負担で良いのかと思っているんですけども。

○出席委員 それで良いと思います。

○教育長 ありがとうございます。続いて未来を担う若者定住応援という事でご質問をいただいております、村で育った若者が大学や専門学校を卒業した後、村を担う人材として定住を応援するための奨励金のようなものを考えられないか、といったご質問でした。現行の制度で村が行っているのは、奨学金を貸与している対象者については、返済期間の時に村に帰ってきていただいた場合には最大120万円までの免除を行っている、ということが1つあります。それだと対象者が限られてしまう部分があるので、今後については何か支援策を研究してみたいという答弁をさせていただきました。

○深澤委員 奨学金は専門学校も対象ですか。

○教育課長 対象です。

○深澤委員 文科省の学校だけではなく専門学校でも？

○教育課長 奨学金は対象のはずです。

○深澤委員 大学院は対象外ですか？

○教育課長 大学院は対象外です。

○深澤委員 年齢制限はありますか？

○教育長 奨学金は年齢制限はなかったと思います。

○深澤委員 もし、社会人が勉強し直したいと思って専門学校に入る場合、その間の奨学金を受けたいという場合も対象になりますか？

○教育課長 高卒で直ぐに入らなければいけないという事ではなかったと思いますが。

- 深澤委員 通信教育はなしですよ、資格のための。
- 教育課長 そこまで細かく書いてあったか・・・かちよつとわかりません。
- 深澤委員 例えば村外に出ている人が、小谷村から奨学金をもらって資格を取って働きたいとか。住民票が小谷村の人じゃないと対象ではないですよ。
- 太田職務代理者 住民票は東京の大学とか行くと移してしまうでしょ？
- 深澤委員 東京に住んでいても移さないことも出来ると思います。
- 教育長 大学だとそういうことはありますね。
- 深澤委員 東京とか松本でも、大学に通うためにアパート借りていても住民票は小谷のままとか。でもそうすると東京にいて住民票を小谷に移して奨学金をもらって働いて・・・
- 松澤委員 でもこれはそういう学校を卒業して村に戻ってきた場合の奨学金を返済する場合の、ということですよ。それで戻ってきた時に住所がこっちにあれば問題ないということじゃないかな。
- 深澤委員 そういうことですか。最初の借りるときも住所がこっちじゃないといけないんですかね。親がこっちにいれば良いのか。
- 教育課長 一応条件としては、小谷村に居住していること、または小谷村に生活の根拠を有すること、成績良好で健康であること、経済的事由により就学困難と認められること、ということになっています。大学生は住民票を残す場合と、寮とかアパートに移す場合があると思いますが、そこは特に良いんだと思います。
- 深澤委員 東京で働いて社会人している人がやっぱり勉強し直したいといって小谷に住所戻して奨学金をもらうというのは対象外ですかね。
- 教育課長 東京で働いていると厳しいと思いますね。学生の場合はそのまま普通にいけるとは思いますけど。小谷に帰って来て、専門学校行けるか分からないですけど、長野や松本という場合は大丈夫だと思いますけど。
- 太田職務代理者 ズルい話が、そういう人は一旦住所を小谷に戻してやれば出来るんじゃないですか。
- 深澤委員 東京に居続けて、資格取ってそのままスキルアップして小谷には帰ってこないという。
- 片山委員 小谷に帰って来る、という条件なのではないですか？
- 教育課長 そうです、免除が受けられるのはそういうことです。免除が受けられなくても返還はしなくてはいけないので。あと、経済的理由により就学困難、というのがあるので、普通に働いていて生計たててしまえば多分受けられないと思います。
- 太田職務代理者 今、何人くらいいますか。
- 教育課長 7、8人くらいいたと思います。
- 太田職務代理者 中には免除になっている人はいる訳ですか。
- 教育課長 います。2人くらいだったと思います。
- 教育長 よく言われるのが、高校卒業して、大学とか最初の時にお金が掛かるので何とかならないか、という話は良くでるんですけどね。
- 教育課長 初期費用に助かるような支援策が欲しい、という話がありますね。

- 教育長 相当早い段階ですよ。入学する半年前とか。
- 松澤委員 確か決まれば直ぐに入学金だけは納めなければいけなかった気がします。
- 深澤委員 いくつか受けて、本命が一番最後だったりするから、一旦は払わなければいけなくて、それが返ってくる前に本命の方を払わなければいけなかったりします。
- 教育長 今すぐではないのですが、また良いご提案があればお聞かせいただきたいです。あと、私が思う支援策として、小、中学生の修学旅行なんですけど、バスに係る費用がこれから値上がりすると思われることと、人数が20人超えのクラスもあれば、11人とかのクラスがあります。そうすると1人当たりの単価が変わって来るので、そこはちょっと支援しても良いのかなと思っていますが、いかがでしょうか。例えばバスが30万かったとして、10人だと1人あたり3万円、20人だと1万5千円と倍違ってくるので、そこは少し支援してあげたいなと思っています。
- 太田職務代理者 1人いくらとか決めた方が良くてことだね？
- 教育長 それもあると思います。最低限負担してもらった額を決めて、それ以上は村が負担するのも良いですね、みんな村がみるというよりは。
- 教育課長 それともいっそバス代は村がみるみたいな方が良いのか、色々考え方はあると思います。
- 片山委員 修学旅行への支援は良いと思います。学校行事ですし、そういう声を保護者から聞いたことがあります。
- 教育長 そこであれば公平というか、全員にかかることですし。公平な支援が出来るのかなと思ひまして、ちょっと新年度で考えてみたいなと思っています。全額になるか一定額になるか、まだちょっとわかりませんが予算は計上してみたいと思っています。
- 深澤委員 上の子とか下の子で、泊まるホテルが同じ奈良、京都でも行く体験が違ってりして、値段の違いというのは行程とか泊まる宿とかによって違うと思うんですけど、バス代は人数による違いが出てくる場所ですよ。
- 太田職務代理者 バス代は貸切だったら同じじゃないですか？30人で乗ろうが10人で乗ろうが。
- 教育長 結局1人当たりで負担する部分が増えてしまいます。
- 松澤委員 人数割りなんですよ。
- 深澤委員 バス代が同じだから、乗る人が10人と20人で差が出ますね。
- 太田職務代理者 なるほど解りました。
- 深澤委員 泊まるホテルによる違いも凄くあると思います。宿坊に泊って朝4時に起きて雑巾がけした子もいたり、料亭みたいな旅館に泊ったり、宿とか回る行程によっても、その時の旅行会社や先生との話で変わるようです。でも人数の少ない学年が宿坊に泊ったら同じ負担額で行けるかと言ったら、それはちょっとかわいそうかなとか思ったりします。
- 教育長 これまでの経験の中で単価が大分違ってたということですね。
- 深澤委員 そこはちゃんと見てはいなかったんですけど、行った内容や工程は随分違ったなというのがあります。
- 片山委員 修学旅行のお金ってその都度払う訳ではないですよ。なんか積み立てに

なっていて最後に調整した気がします。

○深澤委員 最後に戻ってくる額が違ったりするのかな。

○教育長 入学の時から一定額積み立てていて、最後に6年の時と中3の時と使って精算ということになると思います。

○深澤委員 コロナの時は行けなかったりとか、それで県民割りとか使えるクーポンとか出て、結局お小遣いの分が返ってきたり、かえってラッキーだった年もあります。

○教育長 そういうこともありましたね。

○深澤委員 年ごとに色々あると思うんですけど、人数によるどうしようもない不公平感というのはやっぱりあると思うので、バス代が人数による不公平感がないというのは、支援しても良いのかなと思います。

○教育長 続いて山村留学についてご質問をいただいています。これは何回かいただいているんですが、以前のような山留センターを作って大勢受け入れることは想定に入っていないとは思いますが、村長は親子山村留学みたいなことが出来ないかという意向をお持ちで、今度の任期中に方向を示したい考えをもっているんですが、どう思われますでしょうか。やるとすれば1人受け入れて、その方が気に入ってくれば小谷に住んでもらうことになろうかと思うんですけど。来る人もそうだし、受け入れる側も良いことがないと、来る人のためだけに施策するのはどうなんだろうと思う部分もありまして。確かにこれから子どもが減って学年が10人をどんどん割っていくようになったら、学校運営上は厳しい面はあるんですけど、かといってその分を全部村外から補えば良いのかというと、そうでもないような気がします。

○深澤委員 山村留学っていう、子どもを学習のために受け入れるというよりは、子育て世代の方に小谷に移住して来てもらうという考え方で、小谷村の教育環境がとても良いから、家族連れの方、小谷に移住してきませんか、みたいな形のPRが出来る方が良いんじゃないかと思います。

○教育長 別に学校ということではなくて、若い世代の人たちに入ってきてもらって、ということですね。

○深澤委員 はい。

○教育長 自然と、といったら変ですけど、若い人たちがきてくれて、小谷に住んでもらって、自然と人数が増えていくんだったら一番いいんですけど。

○太田職務代理者 それが良いね、それがベストだね。

○深澤委員 白馬は結構子育て世代が移住してきているみたいで、小谷の方も探してみただけど住むところがなかったと言って、結局白馬にアパート借りて住んでいますと聞いて。その方はまだ保育園児がいるんですけど、待機児童が小谷は一時保育で預かってもらえるから本当は小谷に行きたかったけど、住むところがなかったって言っていました。小学校は良いつて聞いていて、小谷の小学校に入れたいつて言っていました。

○教育長 住むところもなければいけないし、お仕事もどうやって生活するか大変重要なポイントだと思います。

○太田職務代理者 親子山村留学の視察みたいなことは今まで行っていますか。

○教育長 行っていないと思います。

- 太田職務代理者 必要でしたら、そういうこともやる必要があると思います。
- 教育長 どちらかというとき小さめの町村で、子どもの人数も少なく、結果として複式学級を解消するところが多いのかな、というイメージは持っています。
- こういったご質問を受けています。これからも出てくるかと思いますがこんな状況という事でご理解いただければと思います。

3 当面の予定について

- 教育長 では当面の行事予定ということで、年明け1月9日ですが、県招地教委連絡会があります。太田さんご都合が悪いということで承りました。1月10日、校園長会があります。太田さん宜しくお願い致します。1月22日から24日にかけて、台湾から中学生が訪れて、スキーと小谷中での交流を行うことになっておりますのでご承知おき頂きたいと思います。22日は小谷に着くだけで、翌日がスキーをして、24日の午前中に中学校で交流をして帰るという予定になっています。
- 太田職務代理者 どこへ泊るんですか。
- 教育長 泊まりは柵池のリゾートインヤマイチです。
- 松沢委員 そのまま柵池でスキーするということですね。
- 教育長 はい、そうです。続けて24日にも地教委連絡会があります。こちらも太田さんお願い致します。

日程第4 自由討議

- 教育長 自由討議ですが何かございましたらお願いします。
- 出席委員 特になし

日程第5 次回委員会の開催予定

- 教育長 次回は、1月25日の木曜日、16時30分ということで予定させていただきますが宜しいでしょうか。
- 出席委員 一同了承
- 教育長 ありがとうございます。雪も降りましたのでスキー場も何とか良かったと思います。皆様も良いお正月になれば良いと思います。良い年をお迎えください。

閉会を告げる

(17:02)